

# 高林 未稀 ラオス

(コミュニティ開発・2019年度2次隊・東京都大田区)



## 【ラオス人民民主共和国】



### ラオス人民民主共和国の概要

1. 面積：24万平方キロメートル
2. 人口：約710万人（2019年、ラオス計画投資省）
3. 首都：首都ビエンチャン
4. 民族：ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計50民族
5. 言語：ラオス語
6. 宗教：仏教
7. 通貨：キープ
8. 主要産業：サービス業（GDPの約42%）、農業（約15%）、工業（約32%）、製品及び輸入に係る税（約11%）。

## 【お気に入りのグルメ（食）】

### タマフーン



完熟前の青パパイヤを千切りにしたサラダです。

トマト、唐辛子などを加え、魚醤などで味付けし、すり鉢にいれてすりこぎ棒のようなもので突いて作ります。

### カオソーイ



辛味噌ベースの担々麺のような、スープの入ったカオソーイは、ラオス北部でとくに親しまれている麺料理です。

## 【私の任地】

1. 任地の名前：ルアンパバーン県
2. 任地の人口：6万人
3. 首都からのアクセス：飛行機で約40分
4. 庶民の足：自家用車、自家用バイク
5. 物価：食堂で約160円～200円（一食）



## 【活動内容】

農家自身が生産から販売までの一連の流れができるような仕組み作りをしました。オーガニックマーケットの販促については、SNSや販促物製作のほか、マーケットの広報活動をしました。コロナ禍で観光客向けのビジネスが厳しくなり、さらにコロナ禍で一時帰国したことにより、日本企業と縁を頂き、日本企業向けに生産協力と販売交渉をし、安定供給が出来るようにフードサプライチェーンを意識しながら販路を開拓しました。



## 【伝統文化施設でのイベントの様子】

様々な街中のイベントに出店し、農家さんと地域の人々が直接的な交流を通して繋がるきっかけをつくりながら有機農家グループの広報活動を行いました。農家さん自身が、「地域のために農家として何ができるか」や、「作ったので売る」から「売るために作る」視点をもつきっかけとなりました。



## 【日本企業に共同出荷する首都県内の農場訪問風景】

コロナで一時帰国したことをきっかけに県内販路だけではなく、日本企業向けにバタフライピー（乾燥させて染料やお茶として飲まれる花）の生産と販売を始めることにしました。再渡航後、全国出荷の担い手となるビジネスマンを探すほか、首都で共同出荷する農家グループの農場を訪問するなど、ネットワークの構築をしました。